

臨床心理学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

こころの諸問題へのアプローチについて、臨床心理学の基盤となる理論を理解する。また臨床心理学の歴史、臨床心理学と精神医学の関わり、精神病理の理解およびメンタルヘルスの保持増進について理解を深める。さらに臨床心理学の主要3領域（臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理学的地域援助）の方法および倫理について、広く基礎的な知識を修得する。本科目の学修を通じ、臨床の現場で求められる柔軟で合理的な思考と、他者尊重的な態度を修得する。

・教育成果（アウトカム）

本講義で扱う臨床心理学は心理学の一分野であり、医療保健、福祉、教育、司法矯正、産業などの現場で展開されている心理臨床活動の基礎となる学問である。また臨床心理学は、基礎心理学の研究による知見の積み重ねを重視しながら、現実の社会で生じている問題や困難に心理的援助をもって貢献しようとする学問であり、実践活動である。臨床心理学の学修を通して、こころの諸問題を理解するために必要な「個人の内面への考察」と「社会との相互作用の理解」の視点を身につける。本講義では、臨床活動を広く捉え、そこで体験するこころの動きやありようを、臨床心理学の立場から理解するための視点と理論を学修する。また、看護師・保健師・助産師・養護教諭等と連携する職種のひとつである心理専門職の職能を学ぶことを通じ、多職種連携の基礎となる態度を会得する。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1,2,5,7,8

・到達目標（SBO）

1. 悩みを抱える人のこころと生活を想像し、相手を尊重した援助について考察できる。
2. 看護において、コミュニケーションがクライアントとの相互作用に影響することを理解し、説明できる。
3. 多様な健康状態にある人を理解し、その人に応じた健康の捉え方と生活の実現を尊重できる。
4. 多様な価値観、社会的背景、ライフスタイルを持つクライアントを理解し、尊重的態度を取ることができる。
5. 心理療法の主な技法について、その特徴を説明できる。
6. 家庭・学校・職場等におけるメンタルヘルス向上のための支援について説明できる。

7. ノーマライゼーション実現のために必要な支援を考察できる。
8. 病や障害をもつ人の体験を理解し、できうる関わりを考察することができる。
9. 看護職等の支援者に特有のストレスと心理状態を理解し、必要な対処について説明できる。
10. 被災者、救援者のストレスと心のケアについて理解できる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-B 講義室

【講義】

月日 (曜) 時限	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
4/17 (月) 4 限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理学と精神医学 <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理学と精神医学の接点について、ポイントを挙げることができる ・ 医療における心理的支援の特徴を理解し、看護実践への応用を考察できる ・ こころの諸問題への多職種連携による支援を理解し、そこに関与する対人援助職に必要な態度について、自らの言葉で述べるができる 事後学修として WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける
4/24 (月) 3 限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理査定と臨床心理面接の実際 [事例検討とディスカッション] <ul style="list-style-type: none"> ・ 面接法、観察法、検査法についてその概要を説明できる ・ アセスメントについて、学校や職場における事例を検討し、各段階でポイントとなることを列挙できる ・ クライアントとの間で生じる問題について理解し、対応のために必要な視点を述べるができる ・ 上記において必要な倫理的配慮を述べるができる
5/8 (月) 4 限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理面接 1 表現療法 [表現療法のワーク] <ul style="list-style-type: none"> ・ 非言語的情報と非言語的交流の重要性を理解し、関わりに必要な視点を列挙できる ・ 国内で多く実践されている表現療法技法を述べるができる ・ 表現療法技法の理解を通し、表現に表れるその人らしさを尊重することができる
5/15 (月) 3 限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理面接 2 集団精神療法、認知行動療法 [認知再構成法のワーク] 【ICT(mentimeter)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団精神療法について、Yalom の治療促進因子を述べるができる ・ 認知行動療法の基本モデルを説明できる
5/22 (月) 3 限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理的地域援助の多様な展開 1 【ICT(mentimeter)】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 心の健康教育に関する理論と実践を理解し、ポイントを挙げるができる ・ 家族支援のための諸アプローチを理解し、クライアントや家族全体へ及ぼす効果について述べるができる ・ アディクションに関する諸問題を理解し、本人支援と家族支援に必要な視点を述べるができる 形成的評価として WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける

5/29 (月) 3限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理的地域援助の多様な展開 2 【ICT(mentimeter)】 <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の特徴と日常生活における困難さの理解を通し、支援において考慮すべきポイントを挙げるができる ・症状・病・障害等をもつ人の体験を理解し、必要な関わりについて述べるができる ・ノーマライゼーションの理念を理解し、実現のために必要なことを考察できる ・多様な価値観、社会的背景、ライフスタイルを持つクライアントを理解し、多様性を尊重することについて、自身の考えを持ち、行動に反映することができる 事後学修として WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける
6/5 (月) 3限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	臨床心理的地域援助の多様な展開 3 [事例検討とディスカッション] <ul style="list-style-type: none"> ・被災者・被害者支援とそれにかかわる支援者への支援について、事例検討を通し考慮すべきポイントを挙げるができる。そして必要な関わりについて述べるができる ・社会的ひきこもりについて理解し、本人支援と家族支援に必要な視点を述べるができる ・電話相談の特徴と対応上の留意点について述べるができる
6/12 (月) 3限	心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 講師	ケアする「私」の理解 [コーピングチェックリストの実施とディスカッション] <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助職に特有なストレスについて理解し、それへの対処を述べるができる ・患者、家族、医療スタッフを尊重しながら自らのことも大事にするための態度について、考察することができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	臨床心理学 心の専門家の教育と心の支援	鑪幹八郎・川畑直人	培風館	2009
参	よくわかる臨床心理学	下山晴彦（編集）	ミネルヴァ書房	2009

・成績評価方法

総括評価：前期試験成績を 60%、講義中・後に実施するワーク（課題）への取り組みを 30%、確認テストの成績を 10%として評価する。前期試験は MCQ：多肢選択式問題と論述問題を出題する。ワーク（課題）への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「ワーク（課題）評価基準」に従い採点する。

形成的評価：5 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

事前学修については、初回講義では、1年次「心理学」の「臨床心理学の基礎」と1年次「医療面接の基礎」の「カウンセリングの基礎」で学んだ内容を復習すること。2回目講義以降は、シラバスに記載されている授業内容を確認し、前回講義の最後に提示する事前学修用予習ポイントや課題を含めて取り組むこと。講義中、事前学修内容を WebClass に入力する時間を設けることがある。事前学修の時間は各回最低 30 分以上を要する。

事後学修は講義資料を中心に、講義中で紹介した資料を調べる等取り組むこと。事後学修の時間は各回最低 30 分以上を要する。

また第 1 回目と第 6 回目の授業の事後学修として WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受けること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

本科目は、一般的な講義に加えて双方向的な対話を適宜取り入れ進行する。また WebClass によるワークやコメント入力を求める回を設定する。回答については、内容を踏まえ、翌回の講義で解説をおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

ワーク（課題）についてのフィードバックは内容に応じて講義内、翌回の講義内に適宜実施する。また Web Class から採点結果を本人が確認できるようにする。第 1 回目と第 6 回目の授業の事後学修として確認テストを実施する。

定期試験の後はフィードバックとして補講等を実施する。

学生からの授業に対する意見や質問については、WebClass のメッセージから随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	DVD (BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成